

県立学校  
生理用品  
無償提供

4月から予算化しました

県民と力あわせ  
一歩前進させる

千葉県教育委員会は、4月から県立学校で生理用品を無償提供するための予算措置にふみきりました。

対象は、全日制高校119校、定時制高校1校、通信教育高校1校、特別支援学校37校、県立中学校2校の計160校。とりあえず1校あたり1万5千円ですが、これまでは各学校は需用費の中から工面していました。

学校関係者など県民からは早期の「予算化」を求める声が上がリ、日本共産党県議団は議会で予算をつけるようくり返し求めてきました。今回の「予算化」は一歩前進と言えます。

## 人権・プライバシーを最大限尊重した 学校めざして引続きがんばります

無償提供のやり方は、各学校によって違いがあります。生理用品の設置場所は、トイレの洗面所、トイレの個室、更衣室、廊下、保健室、職員室・図書室などです。必要となった時は、直接申し出る、カードに記入、二次元バーコード使用、申告なし、申告は任意などです。

予算を増額し、衛生面に気をつけながら、すべてのトイレの個室に置いておき、「だれが、いつ、使ったのか、誰にも知られない」（非対面方式）ことが大切ではないでしょうか。

また、従来の性や生殖などにとどまらず、ジェンダー平等や性の多様性、自己決定能力などを含む人権尊重を基本とした包括的性教育が重要です。

### 公の施設での無償提供の拡充を

県の公の施設は、14箇所で実施されています。（2024年12月1日現在）  
提供の場所も、やり方もそれぞれ違います。「非対面方式」で、さらに施設をふやすことが求められます。



加藤 英雄  
(柏市)  
総務防災常任委員



みわ 由美  
(松戸市)  
健康福祉常任委員



丸山 慎一  
(船橋市)  
県土整備常任委員



浅野ふみ子  
(市川市)  
文教常任委員